



Title	芒亭書屋談叢
Author(s)	芒亭
Citation	各務時報, 86
Issue Date	1935-07-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77704
Type	article
File Information	A010_12738491_Part5.pdf



送迎の辭

三伏の暑氣漸く劣へ、萬物涼風に避へる時
我が校も大いなる變動に遭遇したのである。
草場校長の御勇退、米山先生校長御就任が
即ち之である。

休暇明け早に、この兩先生を御送迎しなけ
ればならぬ私共學生は眞に感懷深きものがあ
る。

申すまでもなく草場先生は我が校日尙淺き
時代より、今日の設備とゞのひたる長期間學
み下された育ての親である。その御人格高く
慈愛深き事は、今さら再言する要もなく、
その先見の明のあられた事は、夙にかの「農
村工業化」「農業工業化」なる語をはじめて用
ひられ、世の識者に問はれた事よりも私共の
充分窺ひ知る所である。

殊に各務學園に學ぶものにとつて忘るべか
らざる事は、教育指導方針として「自化自育」
をモットーとせられその行くべき道を指し示
めされた事である。こは永久に本校の教養精
神たるのみならず、又私共生涯の教訓でもあ
る。

今や卒業生を出だされる事に已に九回、昨年
は又十周年記念を成功裡に終へられ、まさに
功成り名遂げられた境涯である。私共は先生
と御別れするに忍び難いものがあるが、その
なすべきを果したる御心境を惟ひ心からなる
喜びを以て御送りする次第である。

米山先生は本校創立當初より教授として、
校の發展に盡せられ私共の敬慕し惜かざる
所、今や發展期に入りたる我が校にとつて、
先生を新校長に推戴し得たるは私共の欣幸之
に過ぎるもの無し。

私共はこの思ひ出深き時に際し草場先生の
殘されたる御教訓と、米山先生の溫き御指導
とに依りすでに立派に培はれし「岐高農魂」
を益々發揮せん事を誓ふものである。

こゝに兩先生の今後の御多祥を祈り送迎の
辭とする。

總務部

昭 10. 9. 25.

86号